

## 第41回 緑の市民懇話会 会議録（要旨）

1 日 時 平成29年 4月 24日（月） 10:00~12:00

2 場 所 生駒市役所 403・404会議室

### 3 出席者

（委 員） 久座長、下村委員、磯貝委員、稲葉委員、大鋸委員、倉品委員、日高委員  
山田陽子委員、山田勲委員、岩井委員、北島委員

（事務局） 上村都市整備部長、林みどり公園課長、大神花のまちづくりセンター所長、  
石田みどり公園課課長補佐、竹田みどり公園課係長、中川みどり公園課副係長

### 4 議事内容

#### 1 開 会

#### 2 案 件

（1）平成29年度 みどり公園課所管の緑化推進に係る事業及び花のまちづくりセンターに係る事業概要について

（2）その他について

### 5 議事録

（1）平成29年度 みどり公園課所管の緑化推進に係る事業及び花のまちづくりセンターに係る事業概要について

#### 【事務局説明】

- ・生駒市みどりの基金…平成28年度歳入額334,781円、歳出額はまだ確定していないが、残高は約6千万円になる見込みである。  
花のまちづくりセンターふろーらむでの募金や、生駒駅前100円商店街での募金活動の収入により、歳入額は昨年度より増加している。
- ・ボランティア養成講座“花とみどりの楽校”（気づき編）…平成27・28年度に小学生とその保護者を対象に講座をひらいたが、ボランティア団体への加入にはつながっていない。  
平成29年度は、ボランティア養成講座に加えて、子ども達への自然環境教育をしたいと考える。  
緑の基本計画に関係する、生駒市環境基本計画での自然環境分野において、生駒市内の動植物の生育状況を把握し保全について考えるとある。動物は環境モデル都市推進課で、植物については、当課の気づき編で子ども達が学べる場にしていきたいと話をしている状況である。

- ボランティア養成講座“花とみどりの楽校”（里山編）…平成 28 年度 1・2・3 月で 3 回実施済み、29 年度は 2 回予定しており、4 月に 4 回目、5 月の 5 回目で終了となる。
- 樹林地バンク制度…平成 28 年度は 2 件の相談があり、1 件目は境界が確定していない、2 件目は、整備後の利用目的が樹林地で残すのではなく他のものという理由から、2 件とも断った。
- 保護樹木等指定制度…指定標識 3 本設置、現在 15 本指定し、14 本に指定標識を設置。  
1 本については、所有者宅地内のため辞退されている。  
14 本については、地図を作成し生駒市のホームページに掲載しているので、どこに何があるのかがわかるようになっている。  
平成 29 年度は、2 本指定予定。
- 市民の森事業…現在 1 ヶ所。平成 28 年度に広報等で募集したが応募者はなし。平成 29 年度も引き続き募集はしていくが、何か人目につくような良い方法があれば使っていきたい。以前提案いただいたインスタグラムは難しく、生駒市の「いこまち」というフェイスブックが 2~3 千件/日の閲覧があることから、活用を考えている。
- 生垣助成制度…平成 28 年度実績 3 件。制度が始まった当初に比べて、生垣の長さが短くなってきており、道路にはみ出したカイツカの補修が増えてきている。
- ふろーらむイベント…都市緑化の普及・啓発を図り、花と緑と自然のまちづくりを推進することを目的に、春と秋に「花・緑まちづくりフェスタ in ふろーらむ」を開催している。  
今年度は、春は 5 月 21 日に開催、秋は未定だが、例年 11 月の第 2 日曜日に農業祭や他のイベントと同日開催しており、11 月 12 日を予定している。  
来場者数の春と秋の差は、秋は同日開催により人の流れが分散するため少なくなっている。  
内容は、昨年度と同様である。
- 月例講習会…講習会を通して花や緑への関心を高め、市内を花いっぱいにするを目的とし、寄せ植え教室、フラワーアレンジメントや講座型講習会をおこなっている。  
平成 28 年度実績は教室 60 回・参加者 850 人。平成 29 年度は教室 63 回おこなう予定。
- 花と緑の景観まちづくりコンテスト…平成 28 年度 22 件応募があり、5 月 21 日にその表彰式をおこなう。委員の皆様には、表彰式への案内文を配布している。  
平成 29 年度は、4 月 23 日時点で 12 件の応募。
- 花と緑のわがまちづくり助成制度…平成 28 年度は 105 件の実績、平成 29 年度は 4 月 20 日現在 48 件の申請。例年、締切間際に多数の申請がある。

- ・緑の相談…火、木、日曜日はふろーらむ、金曜日午前はたけまるホール、午後は南コミュニティセンターで実施している。多数の利用がある。
- ・花好き・自然好き市民交流サロン…「花好き・自然好き市民」のネットワークを拡げるために情報交換の場所として年6回、偶数月の第1土曜日に活用している。活動内容をサロンニュースに掲載し、年6回発行している。
- ・“Cafe ふろーらむ”の運営補助…2015年にオープンし、まもなく2年になる。熱心なボランティアスタッフの運営により、利用者から好評を得ている。平成28年度利用者数は4,000人、平成29年度も4,000人を予定している。

#### 【委員意見等】

- ・「市民の森」事業で次候補の手が上がらないが、現在ある「市民の森」の良いところをPRしているのか。(発言)  
⇒ホームページに事業内容を載せている。
- ・ホームページは「市民の森」にたどり着きにくい。(発言)  
⇒たどり着きにくいかもしれない。その他、3か月に1回「森づくりニュース」を発行し、活動報告や活動日時のご案内を、これまでの利用者に郵送している。またそれはホームページでも見ることができる。
- ・花とみどりの楽校（気づき編）の参加者が「市民の森」にも参加することはあるのか。(発言)  
⇒近隣の方の利用が多い。花とみどりの楽校は、生駒市全域から参加されるが、「市民の森」は、生駒台みんなの森の名称どおり、その近隣の住民が整備活動をおこない、隣接する小学校が学習に利用している。
- ・地権者に、皆がこれだけ喜んでいるという声を伝え、貸して良かったと更に思ってもらえるように、また、他の地権者へは、「市民の森」にするとこんなにも市民が喜ぶということを伝える。それによって、自分の土地も「市民の森」にと考えてくれるかもしれない。現在の地権者と次の地権者候補に、市民の喜びの声を伝えるのは重要である。(発言)  
⇒使用予定がある。借上げ期間10年は長い。などの理由で、候補地の地権者から良い回答がもらえない。良いイベントの情報などをまとめて、フェイスブックで動画を載せるなど、地権者の目につくよう効果的な広報に努める。
- ・保護樹木等指定制度で、平成29年度指定予定の2本の場所はどこか。  
ホームページで見られるようだが、一覧表にして次回いただきたい。(発言)  
⇒平成29年度指定予定2本は、まだホームページに載せていない。  
長弓寺・伊弉諾神社ご神木の杉と、東新町である。

- ・以前の調査で 20 本を指定候補としたが、今年度指定予定 2 本は、その候補から選出したものか。(発言)

⇒東新町については指定候補からの選出だが、伊弉諾神社のものについては、花とみどりの楽校講座時に新たに見つけた木である。いずれも所有者にはまだ連絡していない。

- ・以前の調査で候補としたもの以外で、今年度以降に該当する木があった場合、候補として検討の対象になるのか。(発言)

⇒はい。対象になる。市の思いとしては、外来種やコナラなどの成長の早いもの、寿命の短いものは省いている。

- ・調査から指定に移行したのものについて全体像が分かるような資料、また、昨年指定したものについて、具体的で詳細がわかるような資料があればわかりやすい。

次回以降の懇話会で示していただくと話が展開できるため、検討願いたい。(発言)

- ・花とみどりの楽校（気づき編）は小学生対象となっており、沢山の参加者がいることは、気づき編としては良いことだと思う。費用対効果もあって、どれだけの参加人数かということでは過去の件で成功している。

ボランティア養成講座の名称が頭についているが、緑化活動を個人でやる方に加えて、グループや団体に参加する方をより多く養成することを目的に楽校は始まったと思う。

これからの楽校では、参加者に気づいてもらい、例えば「市民の森」など次のステップにつなげる連続性や、大人には希望があれば活動団体に参加いただけるということを積極的に紹介し、意識を高揚させる取り組みが必要である。

里山ボランティアに継続して参画している方や、すでに取り組んでいる方が、楽校に入ってくることは、機能しつつあるのだと思う。

気づき編を続けていくなかで、3年ほどは大丈夫だと思うが、こんなことをやったという報告だけでなく、引き続きどう展開していくかを皆で具体的に検討する必要がある。

それぞれの団体で取り組んでいる皆さんなので、どのように取り組めばよいか、うちに入ってもらうにはこんな風にしたら良いかななどの話し合いの場でもよい。

事例として、市が場所を準備、参加者が店舗に行き、こういう花を植えたいと実際に花を見てデザインし、購入と地ならしは事務局、デザインに基づいて実際に植える作業は、プロの方の指導のもとおこなうことを以前やっていた時期もある。気づき編に加えて、何かそういうこともできるのではないかと。皆さんの知恵をいただきながら展開する方法があると思う。(発言)

⇒気づき編については、先進団体などに手法を訊いてみる。

- ・自分たちで企画・動く側になるような仕掛けをする必要がある。そうでないと、お客様ばかり増える。養成講座に参加する人は、多くがお客様である。企画側にまわってもらうには仕掛けが必要で、そこを意識すればよい。(発言)

⇒気づき編では多くの小学生が参加している。ある市民ボランティア団体では、kids 会員を募集し活動していて、子どもがくれば親も参加するようだ。どのようにすればこの事業をとoshi

てボランティア団体に入ってくれる流れをつけられるのかを、皆さんと考えていきたい。

- 保護樹木について、景観重要樹木との関係がこれから必要となってくる。  
リスト・地図の他に、樹高・枝張り・幹回り・写真等の個別詳細は以前の調査資料があるので、公的空間がどれくらい見えるか、公道にあるのか、人目につかない場所にあるのかも含めて、景観重要樹木指定に向けてデータを蓄積しておくといよい。  
この場所からこのように見えるという情報も必要。(発言)
- 以前の調査では、景観を最優先して調査している。公共の場所からの眺望もデータで記録している。(発言)  
⇒選出している 20 本の内、1 本は伐採されていて、1 本は行きにくい場所にあると記憶している。景観がわかるような写真を併せてホームページに載せる。
- 保存・保護樹木に関して、生態的に立派であることは大切だが、それに加えて、景観面でも寄与していると示しておくことは、数年先を見据えての景観重要樹木指定に申請する際に必要となる。また、愛好家はわざわざそれを見に足を運ぶ。(発言)
- 次第は、報告事項と審議事項と懇談事項を分けて記載するよう検討してほしい。  
資料 1 では、備考欄の事実報告だけになっている。ここは、こうしたい、頑張ったというような説明も必要。懇話会なので、この場で検討することの提示を事務局側からあつてよい。  
ここはどうしたらよいか等、意見を吸い出せる提示が必要。(発言)
- 来年度事業に反映させるのなら 8 月には提示しなくてはならない。多くでなく、絞ったものを提示できるよう、検討していただきたい。(発言)
- Cafe ふろーらむの事業概要の趣旨を見ると、花とみどりのまちづくりのきっかけづくり、コミュニケーションを図ることができるかとあるが、どのような成果が出ているのか。(発言)  
⇒ふろーらむで開催している教室の募集チラシや展示物を、Cafe に立ち寄られた家族連れの方等にご案内し、ふろーらむでどのようなことをしているのかを知ってもらえた。また、それが次につながるようなきっかけづくりをこれから考える。  
⇒生駒駅前 100 円商店街に、生駒市みどりの基金の募金協力を呼びかけるブースを出している。  
ふろーらむを知っていただく目的でもあるので、次回もそこで Cafe のチラシを配布する。
- 市役所の方は、本当に人に来てほしいのか。来ていただいたのなら、もっとビジネス感覚を持ち、色々な戦略で PR 活動をする意識をしてほしい。(発言)
- 「市民の森」のホームページはもう少し工夫ができる。「市民の森」の参加者の、こんなに楽しい場所なんだという声を、顔写真入りで紹介することも検討してほしい。(発言)

- ・生駒市と市民の共働を進めていただきたい。具体的には、近畿大学と生駒市は包括連携協定を締結しており、7月30日には大学と生涯学習課がタイアップした1日50講座ほどのセミナー「IKOMA サマーセミナー（仮）」を予定している。

尼崎市では、講師・受講生・実行委員会すべて市民、場所は夏休み中の学校で、その高校生も実行委員としてかわり、去年は2日間で300講座を企画実行した「みんなのサマーセミナー」を開催。このように、市民発の企画で、すべての準備運営も市民がやる形で任せれば、もっと動きやすくなると思う。

環境やまちづくりに関心のある生駒高校出身者が、近畿大学環境・まちづくり系専攻に数人入学してきている。生駒高校生に呼びかければ、花とみどりのまちづくりに協力してくれる学生がいるはずだ。そういうふう引き込めば、もっと市民力が発揮できる。

現在は、市役所が準備をして、ボランティア団体は手伝う形である。もっと市民に投げかければよい。

さらに言えば、「IKOMA サマーセミナー（仮）」でも花やみどりの講座を開催してよいのでは。他課と一緒にPRをし、連携があってもよい。検討願いたい。（発言）

- ・前回話にあがっていた緑の基本計画の見直し、土地緑地法の改正によって管理面が入っていたりと沢山の項目が増えている。新規事業もそうだが、どのようにメンテナンスでなく、マネージメントしていくか。生駒市はある程度市民参画でやっているの、他市より先行している。これらが出てくる背景としての計画はどのように取り組んでいくのか。（発言）

- ・コミュニティパーク事業は2年に1回だが継続なのか、なくなったのか。（発言）  
⇒コミュニティパーク事業は、この後「その他について」で報告の予定をしている。

- ・こういったことを何故次第に載せていないのか。（発言）  
⇒申し訳ありません。係が2つに分かれているためにこうなってしまった。

- ・資料には、決定した事業形態のみ書かれている。決定していない事業は出しにくいのかもしれないが、今後やりたい内容を検討していく会でもあるので、そのリストを作成していただきたい。この会をもっと有効に使える展開があると思う。（発言）

- ・毎回同じことをやっているが、スピード感がない。他の自治体でもこうなのか。PRも弱いように思う。（発言）

- ・良いことをやっても、それをどうインパクトあるPRの仕方をするか。（発言）

- ・ふるーらむが中心となって、遊休地を花畑にするなど、話題性のあることを企画すれば人は集まりPRになる。（発言）

- ・緑の基本計画の進捗状況を評価してみるだけでも、どれだけ進んできたかがわかる。いろんな

制度が充実してきたと思うが、その制度をどう形にしていくかにハードルがいくつかある。

地権者がかかわる制度がかなりあるので、次にどう進めていくかを考えるために、緑の基本計画の進捗管理をしたらどうか。そこで色々なことが見えてくるはずだ。(発言)

⇒平成32年が緑の基本計画の目標年次なので、提供する資料として、計画に対してどれだけ出来ているかいないかを今振り分けている最中である。

・緑の維持に対してどうなっているのか。(発言)

⇒あすか野で152本の木の植え替えをしている。維持管理費年間200万円の軽減。10～15年で投じた金額を上回ることができる。

・同じ樹種を植え替えるのか。(発言)

⇒昭和40年代から山を削って緑を伐り開発を進め、早く成長するケヤキなどを街路樹に選んだ。

それが大木になった為に植え替えが必要となった。

自治会と話し合いのうえ樹種を決めた。

・資料1で、今話している事業内容が記載されていない理由はなにか。(発言)

⇒公園管理系の欄を次回より作成する。

## (2) その他について

### 【事務局説明】

・真弓1丁目公園でのコミュニティパーク事業で、ワークショップを4回開催した。

各回、幅広い年齢層で20人前後の参加者。

第1回目「公園のイエとこ・アカンとこ」…良い点として、運動広場と遊具広場が分かれていることや、大きさはちょうど良いという意見があがった。しかし、落ち葉が多く掃除が大変、出入口がバリアフリーになっていない等、多くの悪い点があげられた。

第2回目「こんな公園がイエな」…幅広い年齢層が利用できる公園にしたい。スロープや手すり、出入口の改善が必要。

第3回目「公園の計画案をつくろう」…予算額を100点とし、遊具や工事をそれぞれ点数化し組み合わせて、計画案を作成。

第4回目「こんな公園になる」…運動広場と遊具広場をスロープで行き来でき、ベビーカーや車いすでも公園を回遊できるように、遊具1基新設、出入口のバリアフリー化等の整備計画が完成。ポプラの木を伐ってほしい意見と、緑を残してほしい意見とがあり、最終的に必要最小限度6本を伐採することになった。今年度の後期に工事発注する予定。

### 【委員意見等】

・地元市民の意見を反映させながら公園づくりをしていることは、継続してやってほしい事業のひとつである。しかし、敷地を分析し、現場を見に行き、良い悪い所をより良く改善していくことは、一番良いものになるとは限らない。問題点解決型公園づくりでやると、それなりに良くはなるが、その公園が持っている潜在力を評価してみたら、機能転換する公園づくりもあ

るかもしれない。公園が持っている効果や、こんなことも考えておかないといけないという、そもそも論を、最初に導入しておくといよい。

街路樹も一緒に、街路樹を植える意味と、良い点そうでない点を最初に説明しておく。(発言)

- 人は自分の知識経験の中でしか判断しない。それ以外に沢山の情報があって、それを知っているかいないかで判断が変わってくる。専門家が知識や情報を最初に伝えてからスタートすると、方向性が違ってることがある。次回ワークショップを開く折には、いろんな公園の情報を示していただきたい。どの段階でどの情報を示すとアイデアを膨らませられるかを見極め、シナリオをつくることは、ワークショップの専門家の腕の見せどころである。(発言)
  - 専門家から見たら 100 点のデザインがある。ワークショップを開くと、80 点のものになる。しかし、市民の満足度は 120 点である。ここをどう考えるか。(発言)
  - 実際、皆の意見を取り入れられないので、60%の満足度で成功なのかもしれない。(発言)
  - これまでにリニューアルした公園のその後の意見を聞いて、その情報を次回の公園づくりに活かしてほしい。(発言)
  - 車いす・ベビーカー・植物図鑑を持ち込んで、市民に体験してもらい、将来の自分を考えながら、調べながら話を進めると理解してもらいやすい。コンサルタントにもそのよう依頼しておくといよい。(発言)
  - 以前、地域のコミュニティパーク事業にかかわったことがあるが、コンサルタントからそのような説明はなかった。(発言)
  - この事業は、公園と市民のつながりづくりの場である。高額な費用をかけなくてもよいと感じた。(発言)
- ⇒地域の課題を解決するための手法を、この公園を皆で話し合いながらリニューアルすることで学んでいただきたいという狙いもある。

#### 【事務局説明】

- この「緑の市民懇話会」については、平成 19 年設立の「緑の市民懇話会」から引継ぎ、10 年が経過している。10 年の間に、皆様のほかにも熱心に緑化の活動をされている方もおられる状況にある。参加人数に限りはあるが、そのような方にも、参加いただけるように久座長とも相談しながら、検討していきたいと考えているので、宜しく願いしたい。

#### 【座長説明】

- 私と事務局だけでは決められないので、是非とも続けたい、次の方に譲りたい、推薦したい人がいる等ありましたら、事務局に申し出てほしい。

<今後の予定>

- ・5月23日（火）花とみどりの景観まちづくりコンテストの現地審査

<次回の日程について、平成29年8月中旬開催予定 日時と場所は後日連絡>